



心と暮らしを豊かにする 「木育」のススメ

「木育」という言葉をご存じですか？

「木育」とは、幼少期からの木材や木製品とのふれあいを通じて、木材への親しみや木の文化への理解を深めてもらう活動です。北海道で生まれ、全国各地で取り組まれるようになりました。

近年は、木育をテーマにした施設が各地で続々とオープンしています。また、この春以降は、オンラインを活用した木育の取組も活発になってきました。今月 10 月は、「木づかい推進月間」です。

皆さんも、この機会に、子どもだけでなく大人も楽しめる木育を体験してみませんか。



いるおもちゃをはじめ、内装に至るまで木を使用。現在に至るまで、地域住民をはじめとした多くの方々から愛される施設です。

に岩手県産広葉樹をふんだんに使用した姉妹館「花巻おもちゃ美術館」がオープン。花巻市出身である宮沢賢治の作品をモチーフにした汽車の乗り物や、わんこそばのお椀を使ったおもちゃで遊べるなど、広葉樹とアートを融合させた施設として大きな注目を集めています。

現在、おもちゃ美術館には、姉妹美術館が全国に4つありますが、今後は全国各地で姉妹おもちゃ美術館がオープン予定です。また、おもちゃ美術館以外にも、近年、木育施設が各地でオープンしています。この機会に、ご家族やお友達とお近くの木育施設で楽しんでみませんか。

現在、おもちゃ美術館には、姉妹美



※開館前のおもちゃ美術館の名称、ロゴマーク、開館日は
全て仮のものです



姉妹おもちゃ美術館

10万点に及ぶ収蔵品から企画ごとに展示品を変えて展示している「きかくてんじしつ」

木のおもちゃを通して農作物の収穫などを体験できる
「おもちゃのまち きいろ」

すべての世代に馴染みやすいおもちゃで 木の素晴らしいさに触れてほしい

東京おもちゃ美術館 多田千尋館長

東京おもちゃ美術館 ならではの特徵

東京おもちゃ美術館の特徵は、大きく分けて3つあります。1つ目は「木育ミュージアム」であることです。木製のおもちゃはもちろんのこと、内装から壁時計など細かいアイテムに至るまで木質化しているため、館内が木の香りで満たされています。2つ目は一般市民の方が、館内の案内や来館者におもちゃの遊び方を教える「おもちゃ学芸員」として運営に参加していることです。いわば「時間の寄付者」とも言うべきおもちゃ学芸員は現在約360名おり、年齢層も10代から



まるで森の中にいるような木の香り漂う「おもちゃのもり」

コロナ禍での対応と そこから見えてきたこと

新型コロナウイルスによる影響は当館も甚大で、3ヶ月間臨時休館しました。6月に再開後は、入場者数を制限し、事前予約制にすることで三密を避けたり、おもちゃの消毒をこまめに実施するなど、の感染予防を行っています。臨時休館前の週末には800人以上にご来館いただくこともありましたが、現在は入場者数を40組150人に抑えていますので、以前よりもゆったりと遊んでいただけるようになりました。消毒によってガラガラになってしまったおもちゃの入れ替え等を目的としたクラウドファンディングでは、「木の空間がなくなる



のは嫌だ」「木育に興味を持つきっかけをくれた場所だから頑張つてほしい」など、数多くの温かい声とともに短期間で多くの寄付が集まりました。四谷で開館して以来、延べ100万人以上の方が当館へ足を運んでいただき、木質化や木育の素晴らしいさを知っていただくきっかけになったからこそ、多くの支持をいただけたのではないかと感じています。

「木育サミット」による 木育活動のネットワーク化

「木育」の活動を、多くの人に知ってもらうために、2013年度から「木育サミット」を開催しています。毎年、多くの登壇者、多くの社会的立場の方から木育に関する取り組みを紹介いただきます。日本各地で木育に取り組む方々に一堂に会してもらうことで、木育の活動を行う人たちのネットワークを強化していくイベントです。今年度は、オンラインでの開催に切り替え、2月の毎週土曜の午後に、木育と暮らし、子どもと木育、SDGsと木育などのテーマ

で開催します。木育に関わっておられる多くの方にご参加いただきたいと思います。
心の渴いている時代だからこそ木育が大切

昨今、世の中では木育の重要性に注目が集まっています。それは、利便さを追求した結果、周囲から自然がなくなり、その違和感へのひずみが大きくなってきたからではないでしょうか。元来、人は長い歴史のほとんどで木と共存関係にありました。そこから考えると、生活空間に木のない環境こそ文字通り、不自然なわけですね。そのことに気づき、木のある生活を欲する人が増えてきたからこそ、木育への関心が高まってきたのではないかと感じています。木育を通して木に触れることで心の渴きを癒し、そこから生まれる「コミュニケーション」を大切にしたいです。

おもちゃ美術館の全国展開を通して 木育による「革命」が起きることに期待

現在、おもちゃ美術館は当館以外に4カ所あり、2023年までに全国12カ所に拡大する予定です。そして今後はその数をもっと増やし、いずれはすべての都道府県におもちゃ美術館を展開することが目標です。それが実現すれば、山村の活性化や廃校や商業施設跡の活用など地域が抱える課題解決に貢献でき、木育による地域の「革命」を起こすことができるでしょう。おもちゃ美術館が、そのきっかけになればとても嬉しいですね。

岐阜県産の木材を ふんだんに使用した木の遊び場「ぎふ木遊館」



岐阜県産の木材がふんだんに使われている「ぎふ木遊館」

た。遊びのきっかけに満ちていて、自然のつながりが感じられる豊かな「はらっぱ」。使い方の制約がない「はらっぱ」のように、自分自身で遊び方を発見し、工夫しながらのびのび過ごせる場所を目指しています。

岐阜県では、森林に誇りと愛着を持ち、守り育てる人材を育む「ぎふ木育30年ビジョン」を策定しており、その実現に向け、幅広い年齢層の方が森や木に親しみ、森林とのつながりを体験できる総合的な木育拠点として建てられました。

カラマツやヒノキなど、岐阜県産の木材を98%使用した木造平屋建ての建物の中に入ると、同県産材でつくられ

た9種類の大型遊具や、同県出身の作家が県産材を使って製作したおもちゃなど木のおもちゃが置かれている「木育ひろば」をはじめ、簡単な手作りから本格的な木工まで体験できる「木工室」、県内各市町村の森林文化やぎふ木育の取組等を紹介する「ギャラリー」など、バラエティに富んだ部屋で構成されています。また、ぎふ木育指導員を中心とした「ぎふ木育」に関する専門的な知識を持つスタッフが、木製遊具や木のおもちゃ等での遊びのサポートを通して、木の魅力や、森と人とのつながりを伝えていきます。

ぎふ木育指導員とは…

ぎふ木育指導員は、木育に関する幅広い知識を持ち、さまざまな場で岐阜県の森の恵み・木の文化を伝え、森と街、人をつなげていく伝道師です。幅広い世代の方とコミュニケーションを取るためのホスピタリティも求められます。

岐阜県では、そうしたスキルを養う「ぎふ木育指導員養成講座」を2016年度からの3年間開催。ぎふ木遊館や同県内101箇所に設置された常設版「ぎふ木育ひろば」等において活躍しています。



100種類を超すおもちゃと9つの大型遊具を配置



木の実に見立てた玉を転がすといろんな音色がする「森の砦」



いろいろな遊びができるはらっぱのような「木育ひろば」



ハンモックでゆらゆら



木工室での木育プログラム（あんどんづくり）



森林分野や木育の取組を紹介するギャラリー

ぎふ木遊館
<https://mokyukan.pref.gifu.jp/>



新しい木育のカタチ

きいちろうワークショップ

8月1日、自動車ディーラー・ネットヨタ神奈川株式会社 ウェインズ 255 上大井店で、木とふれあいながら森や木、環境について学ぶ「間伐材で『きいちろう』を作ろう」オンラインワークショップが開催されました。

開催場所となったのは、今年1月、「木でつながる、地域とのコミュニケーションショッププレイス」というコンセプトのもと、同店にオープンした木's^{きす}ひろば。木's^{きす}ひろばは、ヒササキのシンボルツリーや木のテーブル・スツール、さまざまな樹種でつくった木琴など、地元小田原産の木材をふんだんに使い、木の魅力を存分に感じられる憩いの場です。

オンラインで実施されたイベントでは、エコ教室でSDGsや地球環境の現状、小田原の山や森について学びながら、



地元の職人も協力



木工組立玩具「きいちろう」



エコ教室



木's^{きす}ひろばでのオンラインワークショップ

小田原の間伐材から生まれた木工組立玩具の子犬「きいちろう」を参加者と地元の職人が一緒になって製作しました。ネットヨタ神奈川株式会社は、こうした木育活動を2017年からスタート。地域社会と連携しながら丸太切りなどの体験や間伐材を使ったワークショップ、店舗設備の地域材利用などの活動を続けています。

こどものけんちくがっこう

「地域に根ざしたひとづくり・ものづくり・ことづくり」をテーマとした、これまでになかった子ども向け建築教育プログラム「こどものけんちくがっこう」。2016年4月、鹿児島大学の環境建築研究室と株式会社バガハウスの産学協同で設立されました。「習い事感覚で気軽に楽しく建築や環境を学ぶことができる同プログラムには、小学3年生から中学生まで毎年約50人が参加しています。また、夏期特別授業では実際に建築物を建てることまでを体験できるなど、地域に住み続けること、地域の資源を街づくりに活かすことの重要性を伝えている点が高く評価されウッドデザイン賞2019林野庁長官賞を受賞しました。



2019年夏期特別授業



2020年6月オンライン講座

こどものけんちくがっこう
<https://kodomonokenchiku.blogspot.com/>



今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で授業開始が危ぶまれていましたが、6月に無料オンライン講座を開催。小学5・6年生向けの講座では、レオナルド・ダヴィンチが考案したアーチ橋の学習や角材での模型製作等が行われました。7月からは、有料のオンライン講座も開始しています。

鷹野敦代表理事は、オンライン授業について「全国から参加可能、家族も参観可能、生徒の自宅を教材にできるといったメリットがある一方、うまく製作できない時にフォローしづらい、生徒間のコミュニケーションが取りづらいなどの難しさもある」と語ります。コロナ禍は、授業をより充実させる良いきっかけと捉え、収束後にオンラインとオンラインでの授業をそれぞれの強みを活かしながら並行して行うことにしています。